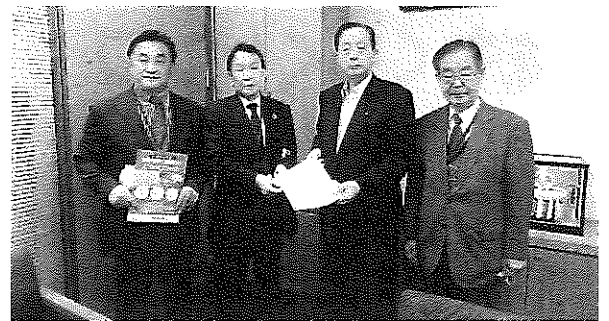


議連に木材産業の 実情訴える

木の総合文化・ウッドレガシー推進協

木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会（東京都、原口博光会長）はこのほど、木の総合文化を推進する議員連盟（衛藤征士郎会長）に「内需の柱としての森林・林業・木材関連産業政策の提案」などの陳情を行った。

新型コロナウイルスの影響で、原木の消費低下、林地残材の増加が危惧されることを踏まえ、木材産業の活性化、木材需要の開発などの必要性を訴えた。また今後の国土強靱化を含め森林保護と木材利用の循環する形づく



コロナ禍の木材産業の困難な状況を含めて訴えた

りの必要性も合わせて訴えた。森林における被害が増えるなかで、害獣処理を兼ねた高温発酵処理の推進など、新たな取り組みへの提案も行っている。

原口会長は「木材産業において各企業、業態で問題となっている状況は異なる。新型コロナウイルスの影響により、産業全体が厳しくなるなか、木材利用の推進を図る形として当協議会の取り組みを活発化し、多くの問題が解決できるように取り組んでいきたい」と語った。今後の協議会の活動を活発化させるとともに、協議会への参加企業、団体も受け入れていく。